

運動器の癌

愛と死を見つめて

最近の韓流ブームで、若い人たちは「愛と死を見つめて」といえばイ・ドンヒョン監督の純愛韓国映画を思い浮かべるでしょうが、私は吉永小百合主演で涙を誘った昭和38年の映画と、レコード大賞受賞曲トッコ、甘えてばかりでごめんね…と歌った青山和子を思い出します。この映画は、当時は不治の病と言われた軟骨肉腫と闘いながら21歳で逝った大島みち子さんと、東京の大学生、河野実さんの遠距離恋愛を映画化したものです。この映画を見て、医師を指した同期生も多くいました。

一般に、悪性の腫瘍を癌と総称することが多いのですが、医学的には皮膚や内臓にできるものが癌であり、血液の癌と言われ

ているのが白血病や悪性リンパ腫などであり、体を支える骨や筋肉にできるものが肉腫と区別しています。軟骨肉腫は骨肉腫と並んで悪性度が高く、癌のように高齢者主体ではなく、むしろ若年層に多く見られ、発症した手や足を切断しなければ命を救えないために、非常に悲惨な病気とされてきました。私が医大生のときに臨床実習で担当し、骨肉腫で膝上から脚を切断した女子高生と、卒業後別の病院の診察室で再会したときには複雑な心境でした。

ご存知のように、最近の医学の発展によって、以前には不治の病と言われてきた多くの癌が早期発見によって、根治可能な時代となってきました。そして、悪性の肉腫も手足を切断することなく治療することが可能となってきました。まさに、死を見つめることなく治療が可能な時代となってきたのです。早期発見のために、四肢や腰・背

骨肉腫の治療 医療の発展



昔
命を救うために手足を
切断しなければならなかった



今
早期発見で手足を
切断しなくても治療可能

部の疼痛は、運動器（骨・関節・筋肉・神経）疾患の専門医である整形外科専門医の診察を早めに受けるようお勧めします。